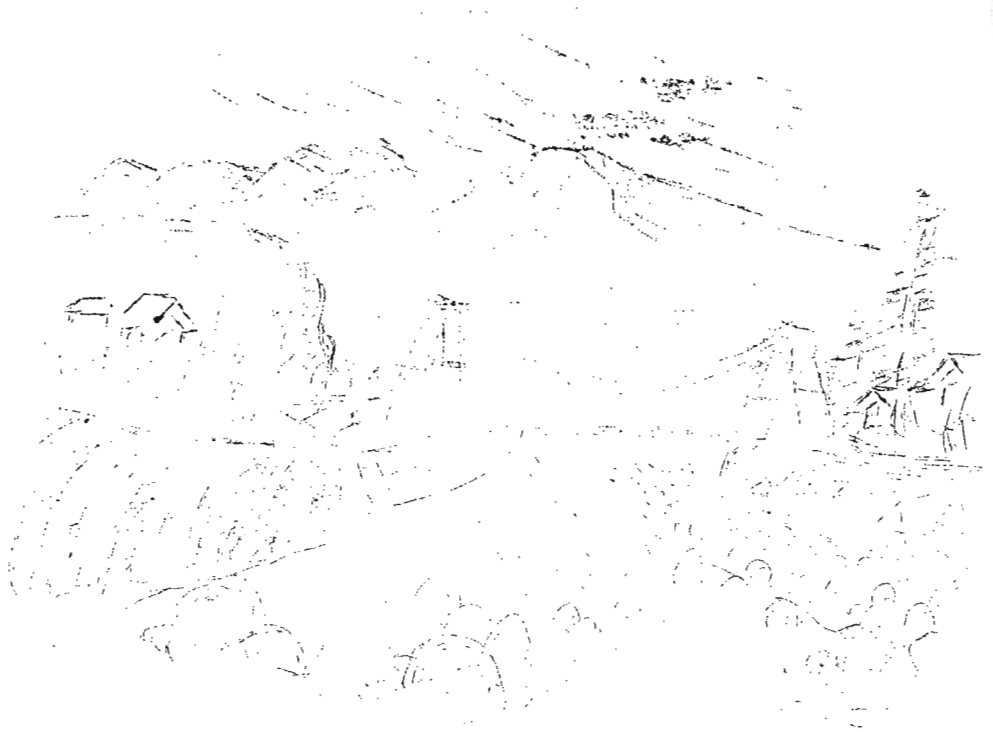


杉本.

SUAC

月報 52

特集 / 連体合宿報告



1966.5

信州大学山岳会上田(織維)山岳部

目次

No. 52 1966年5A発

表紙 我が村から又かつ刊行
佐々木史郎

青連休合宿報告

1. 我が合宿を顧みず(総括).....	C.L. 佐々木史郎	2
2. 計画の概略.....		3
3. 行動概要.....		3
× 篠の反省.....		4
食糧反省.....	杉本敏宏	
装備反省.....	真良明	
会計報告.....	河原洋	

新人合宿の計画

1. 前言.....	上田山岳部 C.L. 佐々木史郎	5
2. 計画概要.....		5
3. 各係及び組織面概要.....		6
× 連絡先(事故防止策).....		7
5. 保護者連絡先、他.....		7

“お便り紹介”

Kさんより—Summer Tentの思い出—.....(K子=あるBG).....9

私の最近1、2年間の山歴..... O.G. 石川悦子.....9

「新人」について..... 新人係: 真良明.....8

山にひかれて..... 市野勝正.....12

事業報告.....10

“木村”の退部について..... 主将: 佐々木史郎.....12

総会のおしらせ.....14

編集後記.....13

地 party と分れ、松本 party を追う。松本の新谷、岡村 両氏らとエンコラ、ド
ソコイと休んで話にふりかへるうちに、天候、ますます悪化の徴候ありを見て北俣
止合まで下る。トランシーバで 鎌尾根隊との交信も行いつ、タレント隊の帰
りを待つ。13時の交信を最後に 鎌隊の下山開始を確認して、全員下る。

○鎌尾根隊 (岡村 杉彦)

登下降にさほど困難はなれど、雪が上から上 10cm 位あり、手肉取る。稜線直
下 30m 地裏まで行くが、この辺がやや急で、登降意欲を失う。タレントも東
も退却の報に強く心をなやめ、ついに、退却の意思を伝える。下りは特
急のよう迅速に下山す。

★ 5月5日 ○

絶好の快晴であった。3次出合をストップ、サレルワ、アセソワ、コンラ、ユアス
訓練をした後、テントを撤収して帰る。途中、逆光に輝く斧岳がカニとて
あった。なお、狩野軍が、熊狩り方に出会った。

4. 係の反省

4.1 食糧係

杉本 敏宏

はじめの食料係をやって、その毛づかしさは身にしみ分った。次回にいい
こととは、一日毎の献立を確実に作り、使うものの個数、量を明らかにし
ておいた方がよいというところである。計画に従わぬと不足したり余ったりす
るようになる。肉を買い忘れたことは重大な失敗であったが、やはり肉類は必
ずある。なお、しょう油、漬物(タカン、オンコ)も欲しかたという。カンパンの
件があるが、どういふものがよいかも、と具体的に出してもらうといい。(「
たっすい」だけでは分らない)というすることもできたら、注文があのほ
んど受けらるつもりです。

4.2 装備係

奥 良明

ヒニコンテンツは内張はわりなかつた。フライシートが現在我々の部には
ないが、今年中には是非用意したいものだ。合宿中は装備の管理は係
の所に任せずに全員が負付いたらしくもらいたい。

4.3 会計報告

河原 洋

収入

$$600 \times 5 + 1000 = 4000$$

支出

食糧費	3,112
装備費	510
自転車代	100
お茶代(狩野軍)	100

計 3,822

余り 178(円) 部費にまわす。

新
人
合
宿
の
計
画

SAC 合同

1. 前言

上田山岳部 C.C.

—SAC 合同合宿の実現まで— 佐々木史良

この新人練成合宿は、はじめ上田・長野の合同合宿として計画のなか、教養部の新人トレーニングに直接関与している松本部切実の、人道的要望に心をうたれ、SAC 統一の新人合宿を決定をみた。時は 5 月 14 日、新人歓迎コンパの日、徹夜であった結果である。時間的問題やとにかく反対などという恐ろしいものが幸い、我々、Leader 会の熱意が突り、こに当合宿運びとなった。組織面からみると完璧とはいえないが、これもあくまで新人のための合宿であり、我々も又、以後、起るべき克服できる信念をもってその準備に当たっている。我々上田は 3 名、参加部員も減る。しかし、その残り、少ないは問題ではない。昔からの参加依頼も敢えて、しりぞけた新人のための、しかも、はじめ

3. 念願の SAC 合同合宿の意義を私にどうして無視できようというのか。色々状況をかかえての参加であるが、これが、特に、長野との親睦と合併推進の重要な一歩、今の芽、そして、ふとふとという訳である。以下は、ほんの概要にすぎない。SAC 合同の計画書の送付を約して、関係各位に帰了承願りたく思う。
(1966. 5. 20.)

2. 計画概要

2.1. 場所

北アルプス、横尾周辺

2.2. 期間

1966 年 5 月 29 日 ~ 6 月 5 日 (但し、上田は 1 日下山予定)

2.3. 目的

- (○新人のための雪上技術一般に関する訓練)
- (○長野との親睦交流を行う)

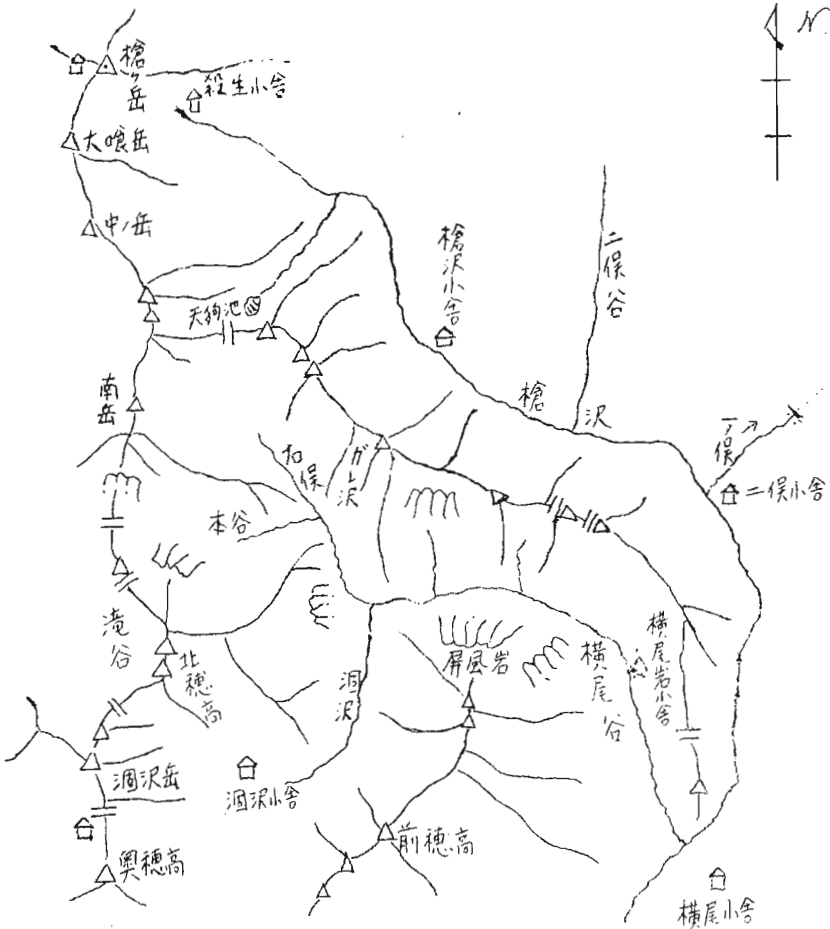
2.4. 参加人員構成

- 上田 佐々木 史良 (3 年)
- 長野 栗 良明 (2 年)
- 長野 倉糧 会計 市 野 勝正 (3 年部 1 年)
- SAC 新人 池 内 寛幸 (SAC 新人)

2.5. 行動のあらまし

入山は徳本峠を越えるが、帰路は自由。新人は雪上訓練、主線歩きは認めるが岩壁登攀などは極端な行動は取らない。又、早く立ち、雪上訓練後、応用テニフとして、稜線までの歩行、スキップ、クワ、ねた果しきもあわせて。

2.6. 横尾又木附近一山図



3. 各係及U組織面概要

◦ Leader 構成

C.L: 宇都宮 (SAC 委員長)

S.L: 新谷 (松本伊那), 望月 (長野) and 佐々木 (上田)

各部 C.L K は拒否権をもちたし運営を合議制にする。

◦ 各係分担

食糧: 松本 (Essen: 170円)

装備: 長野 (燃料はマキのみ, 予備2日分の石油は各部に)

会計: 長野

記録: 上田, 長野 (長野には申し訳ない位である! いつと)

◦ 場所決定とそれ以前

長野: 徳本越え, 横尾

松本: 横尾

上田: 鹿島, 条件付, 横尾

徳本より横尾へ
(但し 島々列の交通費は pool 制)
pool 制を要求したのは部の現状から, 許さず得ないところだ。

○ 2.10 松本・志保・七ヶ浜
(上田は29日~1日の予定。部の方針及び実験実習の関係から、残念ながら不可)

○ 其他
入山まで

新人の装備、テント、サイル...等は各部装備係が用意する。28日(土)午後
4時より全員、松本にてハフティングを行い、終了後、直ちにLeader会を開く。

訓練 etc.

入山は徳本を越える。2年生がシゴキの対象(荷物分担例:新人30kg、2年40kg。
3年以上は残りの平均に30~25kg位。各C.Lは個人装備のみ)であり、入山のメンバーは
適当に混じり、テント生活は家族単位で新人を自由に割りこみ、その部の方針で指
導する。朝、早く立ち(9分、3~4時)、約3~4時間の訓練後、応用テクニック
として稜線まで歩かせる。長野の2年生は新人と同じくサイル・ソールとを行う
こと。なお、上田の上級生が31日頃、ヒコクと踏むのはかまわない。

4. 連絡先 (事故防止対策)

- 登山隊: 横尾小舎 ↔ 上高地豊科警察派出所
- 本部: 信大織維字部 厚生補導係 総 上田(2)1216
- SAC本部: 信大本部 厚生補導課 総 松本(3)4600
- 部長: 内田貞夫(織-機械科 助教授) 上田市上川原柳町1762 総 上田(2)8174
- 残留部員: 岡村紀雄(長野市相模東3492 佐納研-化工) 杉本敏宏(昭三寮 上田(2)5073)
- O.B 代表: 井出邦徳(大阪府 寝屋川市仁和寺高分子寮)

5. 保護者連絡先及び科、学年、年令、血液型 etc.

佐々木史郎: 南佐々郡八千穂村大字畑923 佐々木一

農3 21才 B型

栗 良明: 長野市大豆島松岡7552 栗 順作

織工2 20才 B型

市野勝正: 岐阜県美濃市広岡町 市野時夫

機3 22才 ? (B型)

池内寛幸: 軽井沢町新道1178 池内鉄太郎

化1 19才 A型

「新人」について

新人係 眞 良 明

信州大の全体の長年の懸案であった教養の統合が成され本年度4月より1年生は松本で一般教養を受けることになり我々上田山岳部としては上田に新人が居ないため日頃の新人の訓練が我々の手でうまくいきなくなりました。この問題は昨年中からSACの甲でいろいろと討議なされておりましたが結局新人の日頃のトレーニングは松本在任の部員(松本部員だけでなくほか)が面倒を見てくれることになりました。又、合宿へは各々の所属部の合宿へ参加することになりました。しかし、新人問題は今後、太い考えなければならぬ問題であります。現在、我々の部へは新人(1年)が1名入部したけれど現在松本に於いて松本部員指導のもとでトレーニングを行っております。新人係として松本へ出向したり手紙などで色々新人の指導に当たりたいと考えております。

〔附加え〕

- 松本部員が松本の方針で指導する。(上田 長野はそれに任せる)
 - SACとして新人に区別をつけて指導する。
 - 「松本部会」なるものを設け、これは「1年会」も兼ねる。
(毎週金、午後5時ヨリ 松本部室ニテ)
上田・長野も連絡事項が生じれば出席、その事前にはカキで通達す。
 - 岩トレ等は松本にも頼む訳であるが上田が岩登の訓練したい欲求にかられた時、新人はいつでも参加することも可能である。
 - 新人に事故発生の際は置並に責任はSACでありかつ当面のleaderであり、各部leaderでもある。(SACの遭難事故一切の責任はつまることろ 学長にからんでゆくと同様)
- ★大体、以上のようなことが疑問の案や改善案等、ありましたら 一報一報下す、
なお、これは、小宮氏の原稿向により取り上げました。(佐々木 記)



爺岳 (後立山) を望む

お便り 紹介

Ｋさんより — Summer Tentの思い出 — (Ｋ子…ある B.G.)

拝啓

本格的な冬の訪れの季節となりました。信州大学山岳部のテントへ一泊した思い出……それは今年の夏の思い出です。お覚えずいらしやるでしょうか。あの時は大変お世話様になりました。感謝致しております。あれから、4ヶ月ぶり月日が立ちました。むと早く手紙を出すべきものが今頃になり失礼致しました。憧れの上高地へ、私達にとって思い出深いものでした。冬の上高地も素晴らしい事と思います。また行きたくなってしまいました。長野県でとても良い所ですね。そんな所に住んでゐる人も良い人はかりようです。また杖会があれば、山岳部の人達のお世話にならうとも知りませんが、そんな日があたらと、私に素晴らしい事でしょう。いやありますね。さあ……今年冬と登山なさるのでしょうか。自然が素晴らしいですね。東京にいますとたんだんと自然より離れゆく感じがします。住む場所を替えてせいいはいかようです。空気もまた暖かい澄んだ青空など、遠い大昔のような感じがしてゐると思います。淋しい事ですね……そんな時さつと思い出しますね。上高地の素晴らしい山々も……あの時、うつした、思い出の写真……併送り致します。アルバムが片手かへても貼る頂ければ幸いです。お身体も大切に勉強に励んで下さい。山岳部で7月30日から31日頃、テントにおりました方々にさうさう (11月15日記) 敬具

Ｋより、 信大山岳部の皆様へ

(注) この手紙は S. 40. 11. 19. 3枚の写真と共に我部に到着したもので、その全文を掲載致しました。なお、Ｋ子とは偽名であります。

私の最近 1.2年間の山歴 O.G. 石川悦子

1964

- | | | |
|----------------|------------------|-------------------|
| 4月 岳岳~大岳(奥の平単) | 6月 大妻谷(奥の平単) | 9月 南面集中(谷川・沢・会) |
| 5月 海沢 (〃 単) | 日原川本流(〃〃) | 三ノ峰(平段・谷川・会) |
| 西谷山 (〃 個) | 清郷沢(丹沢・登陸会) | 一ノ倉一沢(谷川・会) |
| 真石丹沢 (〃 単) | 7月 地球谷集中(本谷・山岳会) | 10月 石太郎冬山偵察(谷川・会) |
| 川苔本谷 (〃 単) | オシカ沢(途中・谷川・会) | 11月 稲子南壁(丹沢・外山・会) |
| 雲井溪谷(丹沢・個) | 小川谷下(丹沢・O.B) | サカサ(谷川・山・会) |
| 8月 吹上川 (奥の平単) | 8月 上高地の台宿 | 谷川・山・会 |

12月 冬山荷上げ(谷川会)
西黒尾根(谷川会)

1965

1月 左太郎冬山合宿(谷川会)
ゴウリ沢(三ヶ峠会)
沖源 岩トレ(丹沢会)
三ヶ峠 扇風岩(一般部会)
2月 ゴウリ沢(三ヶ峠会)
スキー(菅平部)
フナ岩(奥多摩会)
3月 天祖山(〃部)
王子ゴウリ沢(丹沢会)
沖源次郎(〃)
沖箱根尾沢(奥丹沢会)
4月 谷川雪上訓練(谷川会)
5月 淵沢合宿(会)
沖源(丹沢会)

6月 沖源 全冷川(丹沢会)
糸銀~社ト(北沢部)
7月 上の杖現(地獄谷集会所)
8月 扇~仙丈(南沢部)
セトノ沢右保(丹沢会)
9月 鷹の巣A沢(谷川南面集会所)
北岳ハットレス(3尾根会)
セトノ沢右保(丹沢部)
10月 逆川(奥多摩部)
夕帽子山、テイル祭(会)
己ノ広谷(奥多摩部)
11月 新某の沢(丹沢部)
湯前山(奥多摩部)
表尾根ホウカ(丹沢会)
冬山荷上げ(世山会)
12月 白毛川(谷川会)

12月中ゴウリ尾根(谷川会)
氏舎岳(〃部)

1966

1月 北岳合宿(南沢会)
2月 スキー(菅平部)
四阿山(〃部)
棒ノ竹山(奥多摩部)
3月 丹沢主稜(丹沢会)
小金沢連嶺(大ホウ会)
ツルネ稜(奥多摩会)
4月 鍋割山(丹沢会)
三ヶ峠(一般部会)
5月 淵沢合宿(会)
松本、コルチノ設置校の
スキーに参りしたが谷川
通過で、渡谷川果てた
と聞いた。

※なお、会・会山行、個人山行、単・単独行

先月出したOB会アンケートの解答より、発表させて頂きました。

事業報告

○5月9日(月)

中5回部会をPM 5:00より寮30号にて開き、5月連休合宿反省会を2時間40分にわたって討議しました。この結果はほゞ総括の中に反映しています。

○5月11日(水)

上小芳山例会がUSK事業所にて開かれ、佐々木、杉本、河原、市野が出席しました。サノ子が沢山りました。

○5月14日(土)

山岳部新人歓迎コンパが松本文理学部の柔道場を借りて行われました。松本、長野の上級部員がほとんど出席したのに対し上田からは佐々木のみ、都合で「仕事」がなかった訳ですが、1年生には申し訳なかつたと思ひます。お密様として、栗駒信大ヒュッテの岡崎さん、OBとしては長野監督の百瀬さんらが参加下さいました。このあと百瀬監督を囲んで、SAC Leader会下設ヶ当面の問題であるSAC合同新人合宿及び上田長野合併の問題などについて話し合いました。

○ 5月15日(日)

岩鼻トレーニング 参加者: 岡村, 奥, 市野

但し、河原はこの日柔道の学部対抗試合があったため、13日、奥と行った。

佐々木……家庭の事情(父病の悪化)にて帰宅。
(森田, 吉川氏と雑談後、帰る)

木村……完全なサボリ

杉本……私的都合上不参加

○ 5月17日(火)

緊急部会……SAC合同合宿について我部の方針を確認

上小労山……組織部会, 山行部会があり、これにて出席(佐々木, 杉本)

○ 5月18日(水)

SAC Leader会が長野部室にて午後7時半頃から12時半まで行われ、新人合宿の議題を討議しました。「とにかく反対」と「とにかく恐るべき反論があったように思う」とにかく、この合宿は実現する予定です。上田からは佐々木出席

○ 5月19日(木)

18日の決定をみる。徹夜で厚生補導提出すべき提案を休み。最近、ウルサクワリ。数日前、学部長室まで呼び出され、忠告を受けた。悪い前例が私の上に、尾をひく。下級生には残すまい。

○ 5月22日(日)

長野県労山連盟結成大会……森田(O.B)出席

祝電「ロウカンレンメイノケンセイヨシユクス」シタ「イウエダサンカクフ」

寮の合同(短大)バスハイクあり。雨天の中を志賀高原へ。(佐々木, 杉本, 市野)

○ 5月23日(月)

上小労山……事業部会及び山行部会。(佐々木, 市野出席)

① 6月4, 5日

尾瀬ハイキング……USK主催におんぶ。す。

② 6月19日

長野労連, 美ヶ原集中ハイキング

この日は長野県学生連合のバスハイクがあったため、美ヶ原は4,000。近頃の人の海となろう。

③ 6月下旬(26日頃)

夜行日帰り山行。④ 独鈷山(3)

④ 7月2, 3日

県労連の登山教室, 大嶺山で。

以上 ①~④が上小労山の当面の事業及び山行です。

この日、やはりサウナがおりました。フワリとしたムードがてすね。

山にひかれて

(1年次) 郡市野 勝正

私は学生生活4年目にして、この3月、山岳部に入部を認められました。これまでワンダフルな部員として2年間、大いに部を、その活動を愛してやってきました。それが山岳部に入部したのは、自分がワンダフル活動に魅力を感じなくなったとか、部活動に行きずまりを感じたからではありません。只、今まで自分が飛び込んでいた自然界の中から、特に山という得物の知らないものを選び出し、それに強くひかれる様になってしまったからだと思います。山の魅力、又、そこでの生活の楽しさ、それはそれだけで大きな喜びがあります。その喜びが大なるが故に、今までの自分には山はそれだけで自分の生活からは離れて別に存在しているかのような様でした。それは自分が山行にならざる時は気が付かず、それで満足して来たのですが、去年1年間、学校という特別な環境から離れた生活を送り、初めて自分の山行きが解せなくなりました。それが逆に山岳部に入部した直接的な動機となったのかも知れません。もと山と深く関ることによって、又、実際山と本格的に取り組んでいく運命と一語にやることにより、山が本当に自分のものになり、つまり山行が完全に自分の生活の一部に溶け込んでいくようになったのです。その点において、目下、一部員として活動する中に、我が上田山岳部は、私に一方性を与えてくれました。又、この“生活と密着した登山”という部の考え方は、これからの山岳界の方向づけと成ると確信しております。

木村の退部について

主持 佐々木 史郎

5月の合宿で今年度の活動方針案およびそのアウトラインが決められた。その下山直後、軽く考えられた、父、病の重大なる(肝硬変で3月5日以来入院中、6日の夕方1時、キツク状態におち入り、)を知り、私の活動範囲も明らかに限定されてきたかに見える。農家の父が、この多忙な団植の時期に、老いた母と妹に田畑を任せ、SUACへの義理人情で、新人合宿に向かんとしているのである。しかし、この忙しいうち、まさかの各部署の下宿まで赴いて、合宿参加の再確認(23日、宇都宮の依頼あり)をしなければならぬという、ことに悲しむべき現実が今だにあたかもある。すでに予備計画書は厚生補導に提出してある。此の諸兄方、いくらとなく頭と心とを、これ位は、実感として判らなくてはならない。

私も実際、木村の下宿へ入るや、驚嘆した。部屋全体が14(無線)の交信室であり、作業室となつて来たからである。今までは上田でけしきろ、日本でも知らぬ者ばかり位、彼のHAM(無線)での活躍はめざましい。ソ連からの通信(ほんとに外国とのこと)を向うから“キムラ”で呼び出されてくると“どうだ”

私は直感で、これは、とららか/本にしほ3カが、木村のために、そして我部の将来

のためにとやされた唯一の手段、けりかきと考えた。私も、余は「これ」といふ退部するにせよ、我々の期待に依りて最後の合宿に出てくわることと強要した。(何故かといえば、新人合宿には参加すると云つておいたからだ。) しかし、不幸なことに、私自身の苦しい立場を読む能力は、彼の生れながらの環境からして、生いて来なかつたとして、当然のことたつたかも知れない。

しかし、彼は山にも登りたくて仕方がないのだ!

その彼が退部を善ぶものかおろうバスがな。部員の中にも、私をウラムよな心配がうまうま漂っている。Leaderとして、これ程甚い経験は二度とないようにと祈る。たが、彼との話合の上で、最善の道を我等2人は考へたのである。これは私と木村たが知る事実である。

では、何故、私は、彼は、この道を選ば"わは"ならなかつたか?

部の規律を保持せんがための、即ち活動範囲の制約を受く私が信じて上田山岳部(SUAC)を継承してゆかんがための最小限のルートを保障しておか"わは"ならなかつたからである。

編集後記

月日の経つのは早いもので、アという向に今月を終ろうとしています。O.Bから月報をもっと早くできたなら、合宿2週向前にして頼むとの要望ができています。残念ながら、今のところ不可能でしょう。今回も云々「はなりましたか」「事業報告」「SAC合同合宿案の出たのが14日」及び「私の家庭事情」等から推測され、お評下さい。

又、企画なども、これから徐々に考え、ゆくつもりです。しかし、そこで一番困るのは原稿の手不足です。その莫大の理解の上、何れも結構です。御協力、^持下さる様、重ねてお願い致します。

徹夜のカリキリは、癒えました。で、カンパリマス!

自分の企画で作る月報、これまた楽しからずや

(佐々木記)

上田山岳部総会のおしらせ

期日：6月12日(日)

時間：午前10時30分より12:30分まで
(この後、引子録と懇親会を行う予定)

場所：交渉中

- 。おわけ：少々準備が遅れている気配で申し訳ありません。加、総会には又障がいをお約束致します。なお詳細には遅くとも6月3日までに所通知するつもりです。
- 。おねがい：総会出席予定の皆さん(永島・石川・小宮・吉川の各氏)はあらかじめC.Bとの証会(連絡会)を以て、お望み下さる様お願い致します。
特に予算面について。

SUAC 第52号

昭和41年5月
発行

編集人 佐々木史郎 河原 洋

発行所 信州大学山岳会
(発行人)

上田山岳部